

がんゲノム医療で活躍できる臨床検査技師 育成プログラム ＜プログラムの特長＞

1. 所定の単位を修得し、修士論文が受理されると、**修士号**が得られる。
2. 病理解析学演習で、所定の期間、実務実習を行うことにより、**細胞検査士試験の一次受験資格**が得られる。病理解析学特論での細胞・組織標本顕鏡や講義で、**2年次秋の一次試験合格の支援が受けられる**。一次試験に合格すると、同年と翌年の二次試験受験資格が得られる。二次試験に合格すると、日本臨床細胞学会認定細胞検査士となる。
3. **実習、臨床研究**を通じて、患者さんや、医師に対し、がんに関する検査の対応をするための知識を得ることができる。
4. 病理、細胞診、臨床検査の勉強、学会参加、サルコーマカンファレンス等への参加を通じて、医療の実態やニーズを知ることができる。また、多くの師や仲間と出会える。
5. 1-4はいずれも、卒業後の長期的なキャリア形成に役立ちます。